

# 愛知県ハンガリー友好協会会報

2019 年春号

## 日本・ハンガリー外交関係開設 150 周年記念事業

本年、2019 年は、日本とハンガリーが外交関係を開設して 150 周年になる記念の年です。記念行事として、「ハンガリーフェスティバル in 愛知」と「ハンガリー刺繍サークル作品展カロチャ刺繍」を開催いたします。みなさまのご来場をお待ちしています。

### ハンガリーフェスティバル in 愛知

日程 2019 年 6 月 9 日(日)13:30~16:30

会場 名古屋国際センターホール

会費 一般 1,500 円 会員 1,000 円 中学生以下無料

#### プログラム

13:30~13:45

開会あいさつ

「日本・ハンガリー外交関係開設 150 周年を記念して」

パラノビチ・ノルバート

駐日ハンガリー特命全権大使



13:45~14:30 「とっておきのハンガリー」：ハンガリーの魅力を語る

ハンガリーの文化や芸術に関する中部圏在住の専門家たちが、それぞれのお気に入りの話題を持ち寄ります。テーマはハンガリーを代表する 3 人の音楽家リスト、バルトーク、コダーイの音楽について、民族舞踊とターンツハーズについて、ハンガリーのジャズとポップス、天才画家チョントヴァーリなどです。また、お気に入りの観光スポットやハンガリー独特のスイーツや B 級グルメなど、いずれも今まであまり紹介されてこなかったハンガリー文化の魅力に光を当てます。

#### 講師

三苦民雄

(愛知産業大学短期大学教授)

富田智容子

(ピアニスト)

大塚奈美

(ハンガリー舞踊研究家)



14：30～15：00 『ピアノの魔術師”リストのピアノの調べ』

リスト/婚礼  
リスト/物思いに沈む人Ⅱ  
リスト/エステ荘の噴水  
リスト/死の舞踏

演奏者 ファルカシュ・ガーボル  
(ピアニスト・東京音楽大学教授)



15：30～16：30 みんなで交流しましょう！  
ハンガリーのお菓子、ハンガリーワインなど

展示  
ハンガリー刺繍サークルの作品  
ハンガリーの子供たちの絵画展  
(セント・モール学園：ハンガリーの伝説や民話の絵)



#### 第4回 ハンガリー刺繍サークル作品展「カロチャ刺繍」

日時 2019年7月26日(金)～31日(水)  
10：00～18：00  
(ただし、最終日31日(水)は14：00閉館)

会場 ギャラリーチカシン(名古屋市栄)

入場無料

内容 中央ヨーロッパに位置するハンガリーには、地方ごとに多種多様な刺繍文化が息づいています。なかでもカロチャ刺繍は、ハンガリーを代表する伝統的な刺繍です。カロチャ刺繍のほかに、マチョー、ベーケーシュ、イーラーシヨシュなどの刺繍も展示します。



ヘレンチャール・ヴィクトリア  
ツィンバロンソロコンサート in 名古屋

富田智容子

2月21日（木）、「日本・ハンガリー外交関係150周年記念事業」としてヴィクトリア・ヘレンチャール先生のツィンバロンコンサートが、宗次ホールで開催されました。今回の名古屋公演は、東京、大阪、京都に次ぐ日本でのラスト公演で、入場者数は310席ある客席ほぼ満員の243名と大盛況でした。

司会を勤める志村事務局長による挨拶の後、ツィンバロンについての分かり易い説明を混じえたトークによって、聴衆の期待は高められた上での開演となりました。

私達は、ヘレンチャール先生の驚異的なテクニックに裏打ちされた、表現力豊かな音楽性あふれる演奏にすっかり魅了されました。ツィンバロンの特徴的な奏法であるトレモロ、ピッツィカートに加えて、楽器の上部両サイドの木製部分を、バチで打ち鳴らす奏法などによって紡ぎ出される音色は多彩で、鈴、琴、太鼓、ギターやバグパイプなどの楽器のような音となって表現されます。

今回のプログラムは、11曲中8曲がヘレンチャール先生ご自身によって作曲された作品で、いずれも大変素晴らしく、特に「さくら さくら」と「福島的印象」は私たち日本人の心に沁み入るものでした。

「福島的印象」はご自身が実際に被災地に足を運び、人々の様子を聞きインスピレーションを受け作曲された作品で、曲の冒頭は三味線を想わせる音色とともに、優しく美しいグリッサンドによって海の波が奏でられた後、日本のお囃子のリズムが現れたり、片手で弦を押さえながら一方の手のバチで叩く（フラジーレ奏法）音が印象的で、曲の最後に「♪～この道は～いつか来た道～♪ ああ～そうだよ～♪」で始まる有名な日本歌曲「この道」（北原白秋作詞、山田耕筰作曲）のメロディーが美しく現れた時は、感動のあまり落涙を禁じ得ませんでした。

終演後の打ち上げの交流会で、ヘレンチャール先生は色々なお話を聞かせてくださいました。

その和やかな交流の中で、私の個人的質問「リストのハンガリー狂詩曲は、リストがジプシー音楽をハンガリー音楽と勘違いして作曲されたという通説についてどう思われるか？」に対して丁寧にお答えくださり、「本来の古いジプシー音楽とはこういうものです。」と、割り箸をバチ代わりに手に持ち、お皿を叩きながら歌って実演されました。そして、この通説は複雑で大変難しい問題を孕んでいるという事を話されました。かねてから疑問を抱えていた私にとって、大変貴重なご意見を拝聴し感激でした。

そして何より、ヘレンチャール先生、ご主人様（イシュトュヴァーン・ホルヴァート氏）おふたりの愛情あふれる素晴らしいご人格に触れ、幸せな時間をいただけた事に感謝します。

尚、補足として・・・今回の名古屋公演は、他の各地での公演と比べて最も集客率が高かったようで、ヘレンチャール先生も「名古屋公演は皆さんとの交流も楽しめて1番良かったです。」と、お喜びになられていたという後日談もあったことをご報告させていただきます。





## 会員紹介



ブダペストから帰ってきました  
大口町在住 佐藤和彦

平成30年3月末にハンガリーから帰国し、10月から友好協会の会員に加えていただいた佐藤和彦といいます。私は、平成27年度から平成29年度までの3年間、文科省の在外教育施設派遣教員として妻と共にハンガリーに赴任し、ブダペスト日本人学校に勤務しておりました。赴任前も赴任後もブダペストの日本語学校ですか？とハンガリーの方に日本語を教えているような誤解を周りの人たちに与えるほど一般にはなじみのない学校ではありません。日本人学校というのは、「日本国憲法および学校法令に基づき現地文化を積極的に吸収しながら初等・中等教育を施すこと」を目的にしている学校です。ですから、ブダペスト日本人学校の授業は日本語の教科書を使い、学習内容も日本と全く同じで、3学期制をしています。運動会、文化祭（ドナウ祭）などの行事も日本と同じように行います。小1からハンガリー語の学習や英会話が週1時間あること、現地校との交流学习を行っていることが特長であり、国内の学校との違いになります。やはり中心になるのは、各企業の駐在員のお子さん方の学力を担保することです。帰国した際に日本の学校にハンディなくすんなりなじんでもらえるように、また中学部においては、国内の高校受験に自信を持って臨んでもらえるように力をつけさせることが大切な目的になります。派遣教員は、公用のパスポートで渡渡し、日本大使館の嘱託職員という立場で活動するので、車の登録などは大使館の住所で行いました。商工会主催のソフトボール大会には大使館との合同チームで参加していました。

赴任の時、心に焼き付いて、印象に残っていることがあります。空港から市内まで40分ほどかかりますが、それぞれの住まいに荷物を運び入れる際、迎えに来たスクールバスの運転手さんが少し大回りしてペトーフイ橋からマルギット橋までずっと川沿いを走ってくれました。私が、一番最初に見たブダペストがドナウ川の夜景でした。国会議事堂と王宮、マーチャーシュ教会をつなぐようにかかる鎖橋、エルジュベート橋、マルギット橋の光の眩しさ・美しさに息をのみ、素敵な場所で仕事ができる喜びを感じ、全力で頑張ろうという気持ちにさせてもらえました。そして3年間を過ごし、



わかりました。ドナウ川の夜景は、ロンドン・テムズ川、パリ・セーヌ川、プラハ・ヴァルタヴァ川、ローマ・テヴェレ川のどの夜景をもはるかに凌ぐほどの素晴らしい夜景だということです。写真は載せませんので、ぜひ一度ご自分の目で確かめていただきたいと思います。再訪される方は、あの夜景を楽しみにヨーロッパまでの飛行機の長旅を堪えていただきたいと思います。

## ハンガリー語入門講座

毎月第2・4水曜日 10:00~12:00 名古屋国際センター

会員募集中



チョルダーシュ・ジュラ

ブダペスト、カーロリ大学日本語専攻卒業のチョルダーシュ・ジュラと申します。去年8月から友好協会のハンガリー語講座の講師を担当させて頂くことが多くなりました。日本の生活はかれこれ3年になり、日本の生活は満喫しているとは言えども、やっぱりときにはハンガリーの空間で落ち着きたいと思うことがあります。それにはハンガリー語の授業のときの「ハンガリアン空間」がぴったりです。「ハンガリアン空間」とはということかと言いますと、言葉で簡単に説明するのが難しいのですが、「時間を悠々と優しく過ごせる場所」と言っても良いかもしれません。

講座の内容は、ハンガリー語のレベルを問わず、だれでもいつでも話に入ることができるもので、有意義な時間になるようにと思っています。しかし自分の性格上の問題で、どうしても難しい話になってしまう傾向もあります。授業の普段の流れは（すくなくとも私が講師を務めるときには）、基本的に即興的です。そのときそのときの話題、個人的な出来事などから始まったり、途中からの質問で話の方向が極端に変わったりもします。単語の分析、文法の説明、文化の違い、ハンガリーに滞在するときに役立つ情報など、内容は様々です。

又これもあくまでも個人的な感覚の話ですが、（ときには「適当」に思われがちですが）私はおおざっぱなことから細かいことへ進む教え方をしています。そして、これは日本でよく見られる「細かい基礎を積み重ねる」というやり方と対照的ではないかと、最近気づきました。比喩的に言えば「彫刻」と「レゴ」の仕組みの違いのようです。ハンガリー語は難しいのか？ 日本語はもう13年習っていますが、漢字の難しさに比べれば、可愛いものだと思います！ どうぞ皆様もハンガリー語の楽しさと「ハンガリアン空間」の優しさをぜひ体験してみてください。



## ハンガリー刺繍サークル

毎月第3火曜日 9:30~12:00 名古屋国際センター

会員募集中



ハンガリー刺繍サークルに寄せて

三宅恵子

第4回ハンガリー刺繍サークル作品展の開催日が近づいてきました。今回のテーマは、カロチャ刺繍。赤やピンク、黄色やオレンジなどの明るい色合いの花々が可愛くて華やかな刺繍です。でも、カロチャ刺繍の始まりは、白い布地に白い糸の刺繍だったとか。私はその白いカロチャ刺繍のテーブルセンターに挑戦中です。150年以上もの時を経ながら受け継がれてきたカロチャ刺繍の奥深さに、改めて感心しています。裏も美しく仕上げるのがハンガリー刺繍。その手法を学びたくて、名古屋国際センターでの刺繍サークルに入会して6年になりました。今までに、カロチャ、マチヨー、ベーケシュ、カロタセグなどの特色あるハンガリー刺繍を教えてくださいました。サークルの皆様の完成度の高い作品に感動と刺激を受けています。ハンガリーの最新情報なども知ることができて、とても楽しい時間です。刺繍サークルを運営して下さる関係者の皆様には心から感謝を申し上げます。



← 斉藤照美先生





## 遠藤綾女シェフのハンガリー案内 ハンガリーのイースター (Húsvét)



イースターとは、キリストの復活を祝うお祭りです。春分の日の後、最初の満月から数えて最初の日曜日がイースターの日と定められています。2019年は4月21日がイースターの日になります。

ここ最近では日本でもイースター商品が見受けられるようになり、イースターの認知度が上がってきていますが、今回はハンガリーのイースター文化をご紹介します。

### 食事について

本来、イースター前の期間は肉を食べることを禁止されているため、イースターでは肉を食べたり、バターや牛乳、卵などをふんだんに使ったパンや焼き菓子を食べたりする習慣があります。肉を食べないという決まりを今でも守っている人は少ないようですが、イースターの時に肉や焼き菓子などを食べるという習慣はしっかり残っていて、多くの家庭で豪華な食事を囲みます。また、ゆで卵とハムに西洋ワサビの組み合わせもイースターのポピュラーな食べものです。

### うさぎとたまご

イースターのシンボルといえば、うさぎとたまごです。うさぎは、多産、豊穣の象徴として、また、たまごは誕生、新しい命の始まりとして、キリストの復活を祝うとともに春の訪れにも感謝をする意味も含まれています。



ハンガリーのアニメキャラクター  
kockásfülű nyúl  
(チェック柄耳のうさぎ)



うさぎやたまごの  
パッケージの  
チョコレートが店  
先に並びます。

### うさぎの巣(Nyuszi fészek)

イースター前日の土曜の夜、ハンガリーの子どもたちはイースターうさぎのために草で巣を作ります。

作った巣を庭へ置いておくと、夜のうちにイースターうさぎが現れ、翌朝には巣の中にうさぎチョコとたまごチョコがいっぱい入っているのです。

### たまごの絵付け(Tojásfestés)

ヨーロッパ諸国でよくこの絵付けたまごが飾られますが、一色に染めるものや、ただ飾りつけをするものもあるようです。ハンガリーでよく見られるイースターエッグには細かい模様が施されています。

### イースターエッグの作り方



たまごの先端に針で小さな穴を少しずつ開け、中身を出す。



溶かしたロウを爪楊枝などの細いもので殻に絵を描きます。





玉ねぎや紫たまねぎの皮、紫キャベツとともにたまごを鍋で 15 分ほど煮立て、好みの色がつくまで半日から 1 日置いておく。



口ウを溶かして拭き取ります。



表面に油(ハンガリーでは豚の背脂)を塗ってツヤを出します。

#### 水かけ

女性を花に見立て、いつまでも美しく枯れないようにと、男性が女性に水をかける習慣があります。もともとは、キリスト教の洗礼や、キリストのお墓へ水をかけることに由来しているとも言われています。イースターになると、男性は女性を井戸へ連れて行き、なんとバケツいっぱいの水を女性にかけるのです。その光景は今でも、イースターのイベントで見ることができます。最近では、友だちの間で水の代わりに香水をかけることもあります。また、こんな水かけの詩もあります。

春の森を歩いていると  
青いすみれを見つけました  
なんだか枯れてしまいそう  
水をあげてもいいですか？

Zöld erdőben jártam  
Kék ibolyát láttam  
El akart hervadni  
Szabad-e locsolni?



Kellemes  
Húsvéti  
Ünnepeket  
Kívánunk!

2019 年春号をお届けします。みなさまからのご意見や情報、記事などをお待ちしています。

愛知県ハンガリー友好協会

E-mail: [ambt@hotmail.co.jp](mailto:ambt@hotmail.co.jp)

<http://aicsimagyar.sakura.ne.jp/wp/>